

会 報

無肥研だより

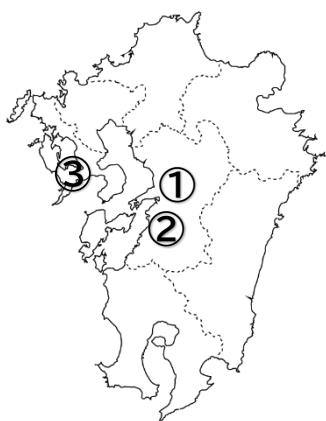
第 26 号

2025 年 11 月 1 日 発行



稲本氏水田での出穂の様子

会員の皆様におかれましては、かつてない記録的な猛暑を如何お過ごしになられましたでしょうか。今回は 8 月 30～31 日に、九州地方の無施肥無農薬栽培（以下「無施肥栽培」と表示）圃場見学会、それに先んじて行われました無肥研の認証生産物専売店であります無施肥無農薬栽培巖田建商店が無施肥栽培普及啓発に向けて参加されました催し、並びに京都府立宇治支援学校での出前授業の様子を報告させていただきます。



1. 無施肥栽培圃場見学会 2025. 8. 30～31

堀江武名誉顧問、白岩立彦理事長をはじめ 20 名の参加の下、①池田氏果樹園（熊本県玉名郡玉東町）、②稲本氏水田（熊本県八代市川田町）、③田添氏果樹園（長崎県西海市西彼町中山郷）を巡る一泊二日の圃場見学会を開催しました。

(1) 池田道明氏果樹園（熊本県玉名郡玉東町）

池田氏の果樹園は栽培面積 2.5 ha で温州ミカンやイチジク、杏等の柑橘類を栽培されています。



2008 年より一部の農地を無施肥栽培へ転換し、2015 年からは 2.5 ha 全てを切り換えられました。池田氏の果樹園の栽培法として特徴的なのは草刈りをせず、草を倒すだけでつる性のカズラ類で地面を覆われている点です。除草剤を使用しない



場合は年中刈りはらうのが一般的です。当初、乗用の草刈り機や背負いの草刈り機で刈られていましたが、追いつかず大変だったそうです。その結果、草刈りが少し遅れた箇所が出来てしまったそうですが、そこにはカラスウリ類のツタが他の草を覆って、草刈りをせずとも綺麗だったそうです。そこからグランドカバーとしてカラスウリやガガイモ、ヘクソカズラなど、一種類のつる草が蔓延することなく多種多様なつる草が生え、除草することなく済んでおられます。

近年、熊本の有機栽培のミカン園ではゴマダラカミキリムシという害虫の被害が大きかったそうですが、池田氏の無施肥栽培のところにはいなくなったそうです。最近では、技術を教えその代わりに仕事してもらい農業実習生を受け入れて、指導にも力を入れておられます。

(2) 稲本薫氏水田（熊本県八代市川田町）



稲本氏がされておられる水稻栽培については、1982 年より栽培面積 10.0 ha でヒノヒカリや朝日 1 号、稲本 1 号など数種類を自然栽培され、10 ha の水田を奥様と息子様と 3 人で栽培管理されています。今回伺った際にまず 18 年前から実施されている「コンビニのおにぎりのご飯」と「稲本様の栽培された無施肥のご飯」、「一般に販売されている有肥のご飯」を地下水を使用し、瓶詰にした腐敗実験の現物を見せていただきました。コンビニ、有肥それぞれ 5 年経つまでには溶けてしまいましたが、無施肥のお米は 18 年経っても腐らず、5 年ぐらい前からは発酵して自然にお酒となったそうです。

水田は 5 か所見せていただきました。隣接している慣行の水田がウンカや病気などで全滅してしまっても何も被害がなく収穫できている水田や、雑草が出てきてもその雑草を食べるジャンボタニシを上手く活用し除草されている水田など様々な水田を見せていただきました。田植えから 3 週間くらいは苗にジャンボタニシが付かないように浅水にして徹底した水管理をされています。その徹底した水管理を成立させるために機械で何年もかけ、水田の土を均平にされました。見学させていただいた水田の 1 つは、約 10 年前の熊本地震の際に塩害で収穫がほとんど皆無となった水田もありました。しかし地震の被害にあっても綺麗に実っていた稲穂があり、その粳で栽培された稲に「稲本 1 号」と名を付けられ御自身の代名詞になっています



(3) 田添孝浩氏果樹園（長崎市西海市西彼町中山郷）

田添氏の果樹園は栽培面積 30 a で甘夏やザボン、スダチ等の柑橘類を栽培されています。2010 年より無施肥栽培を実施されています。低木仕立てで管理されあまり樹勢を強くしないように剪定されています。



もともと慣行栽培をされておられましたが無施肥栽培に切り換えられて、肥料代が不要になった事、肥料を入れないため虫や病気が抑えられている事、無施肥栽培で十分に収穫できるなどの事を挙げられました。柑橘類以外にも、リンゴや梨なども栽培され、カミキリムシや、アゲハチョウなどの卵や孵化した幼虫などを針金で取る等、されています。

17 年経ったザボンの立派な木では 1 本で 200~250 個の実が付きその 1 個も 1 kg くらいとなるとのことです。手のひらにずっしりと載る大きなザボンに参加者の皆様に関心を示されました。



見学会の最後に堀江名誉顧問から以下のとおりコメントを頂きました。

三軒の農家さんを回らせていただいて一番気がついた事は、それぞれ栽培しておられる作物や品種は、その土地に合った物を選んでおられるということです。土地に合った物を栽培し、その中で下草を上手く利用するやり方や下草を刈り取るやり方など、自分なりに工夫されて、肥料や農薬を使わずに、自然界の物質循環を上手く使いながら、それぞれが独特の技術を使って立派な農作物を生産して

おられる姿を勉強させて頂きました。こういうものは実際に足を運び、実物を見ないとなかなか分からない事です。無施肥無農薬でこんなに綺麗なザボンができるという、そういう姿を見ると自信となって返ってくると思います。大変良い旅だったと思います。それぞれが何かを掴んで、また次の活動に活かして頂くことを願っています。

今回は、無施肥無農薬栽培を継続されている果樹園・水田を見学させていただくことができた貴重な機会となりました。その土地に合った作物、技術、それぞれの工夫を伺う事ができ、今後の当会の活動の新たな方針とするべき点も感じられる会となりました。

2. アースデーin 京都 2025 参加 東本願寺前市民緑地 2025. 5. 4

地球のことを考える日「アースデー＝地球の日」が、京都駅に近い立地条件にも恵まれた東本願寺前緑地で開催され、無肥研の専売店であります無施肥無農薬栽培巖田建商店が、昨年に引き続き今年も参加しました。海外の方や地球環境に関心を持った方等、約 300 名の方にお越しいただきました。今年も冷茶を試飲していただき、それを切っ掛けに無施肥栽培のお話をさせて頂きました。



3. 第2回オーガニックライフスタイル EXPO WEST in 京都 2025. 5. 23～24

今年もオーガニックを取り扱う企業、飲食店関係者、生産者など各専門の方々をはじめ、約 7,200 名の来場者がありました。ブースには無施肥栽培認証生産物専売店の看板と無肥研の茶園病虫害調査のパネルを展示しており、オーガニックさえも使用しない無施肥栽培が大変驚かれ、興味、関心を示されました。

当日は数日前に収穫されたばかりの新茶の試飲を用意させていただき、無施肥栽培の煎茶、紅茶、ほうじ茶、抹茶などを販売致しました。お客様の中には、「普段お茶を飲むと喉がイガイガするので、お茶が合わないと思っていた」と仰る方が無農薬なら飲めるのではと思いお試しになると、「すごく美味しい。はじめてこんなに美味しいお茶を飲みました。農薬が駄目だったのかも知れない」と仰っておられました。また、有機栽培に取り組んでおられる農家様は「有機栽培が正しいとは思っていない。手段の一つであり、色々と勉強している処です」と仰っておられ、無施肥栽培に興味、関心を示されました。その他に「昨年買ったお茶が美味しかったので今年も買いに来ました」と来店されたお客様や、昨年度の同イベントでお繋がりいただいた企業様がお越し下さいました。無施肥栽培の普及に繋がるよう、今後も継続して参加し一人でも多くの方に無施肥無農薬栽培を知っていただきたく思います。



4. 京都府立宇治支援学校出前授業 2025. 6. 13

巖田建商店の前身であります小米茶園が、地域学習の一環として同校で始めたお茶の学習も今回で三度目となりました。今回は小学部 6 年生 20 名を対象として、①お茶の葉を感じよう、②道具を知ろう、③お茶の淹れ方、④冷茶づくりの四項目に取り組みされました。初めのうちは緊張されていた子供たちでしたが、すぐにお茶に興味、関心を持ち、何度も手を伸ばして茶葉に触れたり、顔に近付けてお茶の香りを嗅いだりしておられました。実際に数名の子供たちがお茶を淹れて試飲をしていただく事を通じて、全員で楽しく取り組む事ができました。

煎茶を試飲した数人の児童は「お茶が甘い」と初めての体験に大喜びでした。その後支援学校の先生から「子供たちの普段とは違う表情や態度を見て、来ていただいてよかった！」と今でもお会いする度に仰います。

「無施肥無農薬の茶葉を持って来ていただき、児童達は安心して茶葉に触れたり、香りを嗅いだりして楽しみながら学習に取り組むことができました。また、冷茶を自分で作り給食時においしく飲んでいる児童の姿もありました。校内では体験することのできない貴重な機会をいただき、本当にありがとうございました」また、「持ち帰った冷茶を子供と飲んでおいしかった」と感想を書いてこられた親御様もおられました。私共にとっても貴重な体験をさせていただき、安全安心な無施肥無農薬栽培が早く普及できますよう努めてまいります。有難うございました。



(2～4の文責) 無施肥無農薬栽培専売店巖田建商店 巖田早映

★ 今後の行事予定

2025年11月16日(日) 農産展・懇親会

恒例の無施肥無農薬栽培農産物の展示会を開催します。北海道から沖縄まで全国で活動されている無肥研会員の皆様が丹精を込めて生産された農産物を一堂に集めて、会員や一般の皆様は無施肥無農薬栽培の生産物を知っていただく催しです。講演会や試食懇親会も計画しております。

農産展 13:00～14:45 入場料 無料

講演会 15:00～16:15 参加費 500円(オンラインによる参加は1,000円)

試食懇親会 16:30～18:00 参加費 4,500円

※講演会、試食懇親会の申し込み締め切りは、11月11日(火)です。お間違いなきようお願いいたします(詳細はホームページをご覧ください)

会報についてのご意見を、郵便、FAX、E-mailでお寄せ下さい。皆様のお力で会報を充実させていきたいと存じますので、ご協力のほどお願い申し上げます。

(編集担当)

〒606-8311 京都市左京区吉田神楽岡町106-2

【認定NPO法人】特定非営利活動法人 無施肥無農薬栽培調査研究会

事務局 TEL: 075-751-0347 FAX: 075-334-8058

E-mail: bureau@muhiken.or.jp URL: <https://muhiken.or.jp>

Facebook: <https://www.facebook.com/muhiken>